

# 秋吉台

— 美祢市自然保護協会だより —

広報 第10号

発行日：2015年9月1日  
 発行者：美祢市自然保護協会  
 美祢市立秋吉台科学博物館内  
 TEL:0837-62-0640

## 平成27年度 定期総会 (H27.6.21開催)

### 会長あいさつ



会員の皆様には、平素より当協会の運営につきまして格別のご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当協会はこの1年間様々な活動を行ってまいりました。新しい試みとしては、部長・副部長会議制度を設けて会の運営をより円滑に行えるよう業務改善を行いました。また、会員以外の方も参加できるイベントとして、秋吉台のゴミ拾いと兼ねて長者ヶ森を中心に自然散策活動を行いました。更には、協会広報「秋吉台～美祢市自然保護協会だより～」を美祢・美東地域へ回覧用として配布し、広報活動の拡大を図りました。

今後は、自然保護への協力と会員意識の向上を目的とした、清掃活動や巡視のための秋芳洞・大正洞・景清穴への会員優待入洞の件に関しましても検討してまいります。

さて、最後になりますが、平成27年度の活動が皆様と共に楽しくできますよう宜しくお願い申し上げます。誠に簡単で意を尽くしませんが、私のあいさつとさせていただきます。

～総会あいさつより～  
 会長 中村 久

## 秋吉台の絶滅危惧種



ヒナノキンチャク(雛の巾着) ヒメハギ科

環境省の категорияー 絶滅危惧ⅠB類

山口県のカテゴリー 絶滅危惧ⅠB類

陽当たりの良い所を好む植物で、秋吉台では遊歩道縁などで多く見られる。名の由来は果実が巾着に似ているため。 資料提供 松井茂生

## H27 予算

### 【一般会計】

| 収入の部 |        | (円)     |
|------|--------|---------|
| 会費   | 個人・団体  | 325,000 |
| 補助金  | 市補助金   | 150,000 |
| 雑収入  | 貯金利息等  | 82      |
| 繰越金  | 前年度繰越金 | 73,918  |
| 合計   |        | 549,000 |

| 支出の部 |              | (円)     |
|------|--------------|---------|
| 事業費  | 保全活動費        | 15,000  |
|      | 普及活動費        | 212,000 |
|      | 研修活動費        | 130,000 |
| 事務費  | 消耗品外         | 101,000 |
| 会議費  | 総会費外         | 42,000  |
| 交際費  | 慶弔費外         | 10,000  |
| 負担金  | 日本自然保護協会等負担金 | 19,000  |
| 予備費  |              | 20,000  |
| 合計   |              | 549,000 |

### 【特別会計】

| 収入の部 |        | (円)     |
|------|--------|---------|
| 繰越金  | 前年度繰越金 | 500,235 |
| 雑収入  | 利息     | 65      |
| 合計   |        | 500,300 |

| 支出の部 |             | (円)     |
|------|-------------|---------|
| 事業費  | 消耗品費        | 1,000   |
| 予備費  | 50周年記念事業積立金 | 499,300 |
| 合計   |             | 500,300 |

総会では、昨年度の事業実績及び決算報告並びに本年度の事業計画、予算などが審議され、いずれも満場一致で可決承認されました。



## H27 主な事業計画

- 会員・役員研修(先進地視察)
- 秋吉台自然環境パトロール
- 秋吉台清掃活動(花火大会・山焼き終了後)
- 機関誌「広報秋吉台」の年2回発行
- 美祢市内の散策と清掃活動
- 環境保護団体等との連携強化
- 自然保護啓発ポスター・書道コンクール
- Mine秋吉台ジオパーク構想推進協力



総会終了後、山口県立山口博物館動物担当の田中浩先生をお迎えし、「同じ穴のムジナ～アナグマの巣穴を利用するタヌキ・キツネの関係～」と題し、講演を頂きました。私たちに馴染み深い動物たちの習性について、映像を交えてのお話はとても興味深いものでした。

## 秋吉台憲章

秋吉台の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。  
 秋吉台の自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。  
 秋吉台の自然を正しく利用し、人との共生をはかろう。  
 秋吉台の自然を守るために、一人ひとりが積極的に行動しよう。  
 秋吉台の自然、景観、歴史・文化を後世に末永く継承しよう。

ホームページをリニューアルしました  
**詳しくはWEBで!**

美祢市自然保護協会

検索

<http://www.c-able.ne.jp/~sizen35/>

# 日本自然保護 大賞受賞

大田小学校6年生(現在中学1年生)  
村田結菜さん



大田小学校6年生(現在中学1年生)村田結菜さんがコンクリートの水路に落ちたカエルを救う「お助けシュロの糸」を考え、2014年度日本保護大賞(日本保護協会主催)を受賞されました。

村田さんは小学2年生のとき、自然観察教室に参加したことがきっかけでカエルの生態に興味を持ち、いろいろな種類のカエルのジャンプ力を調べた際に、手足に吸盤を持たないカエルの中にはコンクリート張りの水路に落ちたら上がることができないカエルがいることに気づき、助ける方法を考え始めました。



5年生の時、さまざまな方法を試した結果、シュロの皮を三つ編みにし、両はしを麻ひもで結んだ「お助けシュロの糸」を考えつきました。この発想力と普及実現性の高さが評価され、子ども・学生部門での日本保護大賞受賞となりました。また、この活動内容は、3月8日に東京都の日比谷コンベンションホールで開かれた授賞式で発表されました。



「コンクリート水路上部からたらしおくと、水路に落ちたカエルたちがシュロ糸を伝って脱出するカエルたちを見ると、とても嬉しかった」と村田さん。

カエルは田んぼや畑で害虫を食べてくれることから、農作物の保護に役立っていると言われてています。

## 秋吉台の環境について



国定公園秋吉台の自然は四季を通じて他に類を見ないほどすばらしいものであり、市民のこれを保護しようとする意識は高い。このことは本会をはじめ多くの団体が毎年、この台地の清掃活動を行い自然保護に勤めていることからもうかがえる。

しかしながらこの様な任意の団体では如何ともしがたい問題がある。それは台上に存在する今は使われていない建物の存在である。景観上、安全上などから早急に解決したいものである。

(平成27年2月28日 自然観察パトロール報告 環境調査部会)



## Mine秋吉台ジオパーク構想のみどころ

### 【大嶺炭田】

大嶺炭田は、美祢市大嶺・麻生一帯の炭田であり、その広さは南北約12Km、東西に約5Kmにわたります。

石炭とは、太古の植物が沼地などで積み重なり分解される前に地中に埋もれ、そこで長い間、地熱や地圧を受けて変質した物質です。形は残っていませんが植物の化石とも言えます。太古の大嶺地区はシダ植物や裸子植物のうっそうとしたジャングルが広がっていたことが、その他の発見された植物化石から推定されています。

大嶺炭田の石炭は煙の少ない「無煙炭」です。約2億年前に広がっていた植物によるもので、長い年月をかけてマグマの熱によって炭化が進み、「無煙炭」になりました。日本の多くの石炭は、約5000万年前の植物によるものですから、それらに比べ非常に古いものであることが特徴です。

「無煙炭」は他の石炭よりも重宝され、近代の美祢市の発展の原動力となりました。明治時代の戦争では、戦艦などは石炭を燃料としていましたので、燃焼時に煙が出ると作戦行動に支障がでます。そのため、煙の出にくい「無煙炭」は日露戦争で注目されるようになり、海軍が大嶺炭田の開発をはじめることになりました。

その後、大正時代に大嶺炭田は民間に払い下げられました。第二次世界大戦後の国内産業建て直しのために石炭増産政策が実施されたころ、石炭は「黒いダイヤ」ともはやされ、大嶺炭田は黄金時代を迎えます。当時の豊田前町の人口は1万人におよびました。

しかし、1960年代のエネルギー革命以降、主要なエネルギーが石油や天然ガスへと転換されることになり、大嶺炭田は閉山となりました。

大嶺炭田は、近代のエネルギーの変遷、そして日本、世界の情勢によって栄えた炭鉱町の様子や、無煙炭と人々の関わり方の歴史がうかがえる場所です。



## 清掃活動

「秋吉台観光まつり花火大会」の翌日、7月26日(日)にシルバー人材センターの皆さんと共同で清掃活動を実施しました。

50名が参加して、秋吉台カルスト展望台周辺でごみを拾いました。

当協会では、これからも会員の皆さんとごみ拾いを通じて、環境を守るために行動する喜びをわかちあい、美祢市の自然保護を啓発していきます。

たくさんのご参加ありがとうございました。

来年2月の秋吉台山焼き後も実施しますのでよろしくお願いたします。



## 会員研修のご案内



※申込方法など、くわしくは別途チラシ、ホームページ等でお知らせします。

時期:平成27年10月中下旬  
場所:大分県 姫島村など  
参加費:5,000円程度



黒曜石の産地「観音崎」